

「開啟學校的學習之門： 構築連結的網絡」

秋田喜代美(學習院大學)

關於本日演講

- 1 前言：如今的日本
- 2 開啟學習之門：
構築緣分的連結與網絡
- 3 緩慢的深度學習 **SLOW PEDAGOGY**

1 前言

疫情下的孩子

日本「學制」公布**150**週年

疫情對於日本的孩子影響極大

歷史上最嚴重

霸凌、輟學、自殺率增加

孩子的身心與健全的學習受到威脅

孩子的SOS

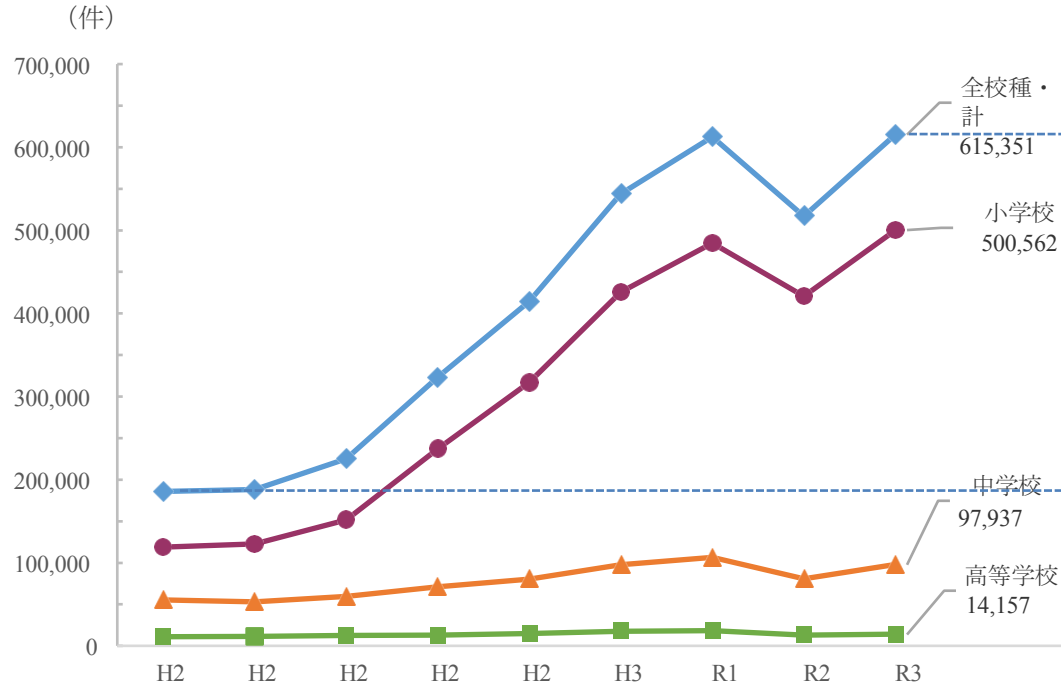
需要重新思考學校的功能

口罩社會、靜默進食相當危險！ 孤立

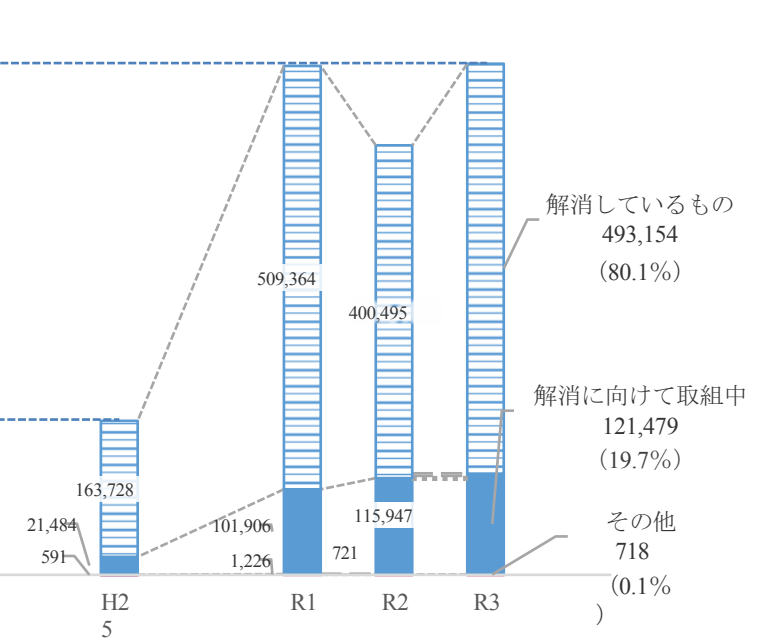


霸凌的状況

已認知霸凌事件的數字



霸凌事件解決状況的數字 (各年度末時点)



年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
小学校	118,748 17.8	122,734 18.6	151,692 23.2	237,256 36.5	317,121 49.1	425,844 66.0	484,545 75.8	420,897 66.5	500,562 79.9
中学校	55,248 15.6	52,971 15.0	59,502 17.1	71,309 20.8	80,424 24.0	97,704 29.8	106,524 32.8	80,877 24.9	97,937 30.0
高等学校	11,039 3.1	11,404 3.2	12,664 3.6	12,874 3.7	14,789 4.3	17,709 5.2	18,352 5.4	13,126 4.0	14,157 4.4
特別支援学校	768 5.9	963 7.3	1,274 9.4	1,704 12.4	2,044 14.5	2,676 19.0	3,075 21.7	2,263 15.9	2,695 18.4
計	185,803 13.4	188,072 13.7	225,132 16.5	323,143 23.8	414,378 30.9	543,933 40.9	612,496 46.5	517,163 39.7	615,351 47.7

- 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は**615,351件**（前年度517,163件）であり、前年度に比べ98,188件（19.0%）増加している。
- 児童生徒1,000人当たりの認知件数は47.7件（前年度39.7件）である。
- 年度末時点でのいじめの状況について、**解消しているものは493,154件（80.1%）**であった。

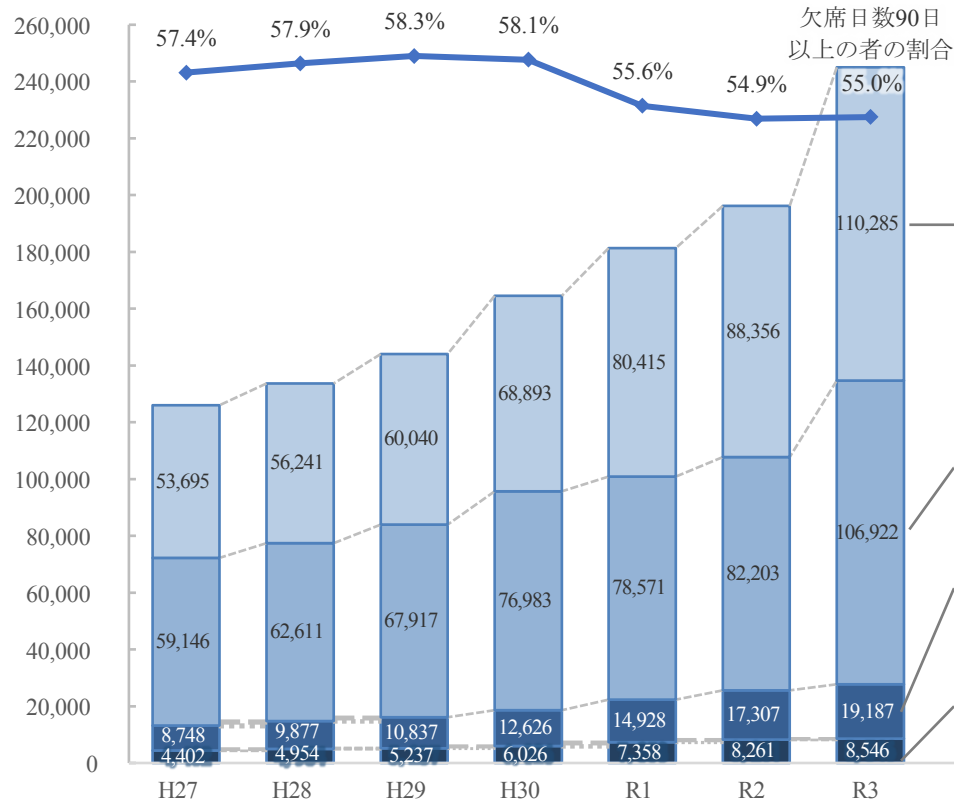
※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

中小學校的輟學狀況

● 已知的輟學生中缺席90天以上的人數達134,655人(55.0%)。

不登校児童生徒の欠席期間別人数

● 推移表(小・中合計)



● 令和3年度の状況

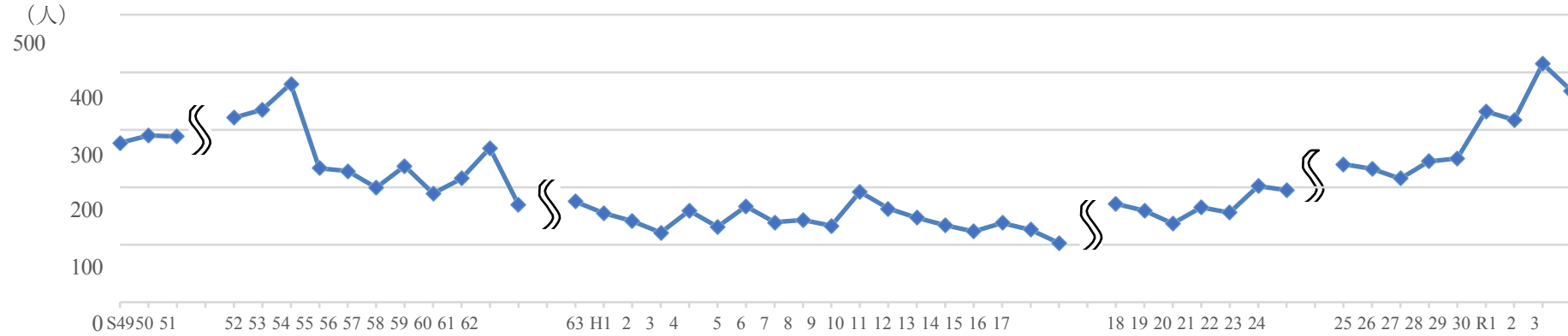
	小中合計	小学校	中学校
不登校児童生徒数	244,940	81,498	163,442
欠席日数30~89日の者	110,285 45.0%	45,488 55.8%	64,797 39.6%
欠席日数90日以上	134,655 55.0%	36,010 44.2%	98,645 60.4%
うち、出席日数11以上の者	106,922 43.7%	29,569 36.3%	77,353 47.3%
うち、出席日数1~10日の者	19,187 7.8%	4,117 5.1%	15,070 9.2%
うち、出席日数0日の者	8,546 3.5%	2,324 2.9%	6,222 3.8%

※ パーセンテージは、各区分における不登校児童生徒数に対する割合。

※ 出席日数については、学校に登校した日数であり、例えば自宅においてICT等を活用した学習活動を指導要録上出席扱いとした場合など、出席扱いとした日数は含まない。

學生自殺的状況

- 小・中・高學校的自殺學生數為368人（前年度415人）。



	小学校	中学校	高等学校	合計
R元年度	4	91	222	317
R2年度	7	103	305	415
R3年度	8	109	251	368

- ※ 昭和51年までは公立中・高等学校を調査。昭和52年からは公立小学校、平成18年度からは国私立学校、平成25年度からは高等学校通信制課程も調査。
- ※ 昭和49年から62年までは年間の数、昭和63年以降は年度間の数である。
- ※ 学校が把握し、計上したもの。

自殺した児童生徒が置かれていた状況 (複数回答可)

状況	小学校	中学校	高等学校	合計
家庭不和	1	15	30	46
父母等の叱責	1	17	20	38
精神障害	0	10	24	34
進路問題	0	9	21	30
えん世	0	10	16	26
友人関係(いじめを除く)	0	9	15	24
学業等不振	0	9	12	21
恋愛問題	0	4	16	20
病弱等による悲観	0	0	8	8
いじめの問題	0	4	2	6
教職員との関係での悩み	0	1	1	2
不明	7	69	137	213
その他	0	4	15	19

令和3年度の警察庁の統計数値との比較

	警察庁調査	文科省調査	差
小学校	8	8	0
中学校	135	109	26
高等学校	311	251	60
合計	454	368	86

- ※警察庁調査、文部科学省調査とも年度間の自殺者数。
- ※警察庁調査における、令和4年1月～3月までの数値は暫定値である。

根據調查結果 文部科學省的應對措施

- 根據這次的調查結果、
 - 令和2學年度中減少霸凌事件增加至過去最多
 - 小・中學習的輟學生也增加至過去最，狀況非常嚴重。

いじめ対策の強化について

- ✓ 今般、新たにこども家庭庁設立準備室と共同でいじめ防止対策に係る関係府省の局長会議を立ち上げ。
- ✓ また、専門家により構成される「いじめ防止対策協議会」に対し、いじめ防止対策に係る審議要請。

検討項目の例

- いじめの重大事態における総合教育会議の活用等首長の関与の在り方
- 犯罪行為が疑われる場合の警察との連携の徹底など、関係機関との連携の強化
- 重大事態の認知や調査の在り方の検討

※詳細な検討項目は次ページ

不登校への対応について

- ✓ コロナ禍が長期化したことによる生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況や、学校生活に様々な制限がある中、登校する意欲が湧きにくい状況にあったこと、保護者の意識の多様化等も背景として考えられるが、更なる要因分析が必要であり、専門家で構成される「不登校に関する調査研究協力者会議」において分析検討。
- ✓ 不登校特例校の設置促進やICTを活用した学習活動の充実など必要な対策を進める。

新型コロナウイルス感染症と 子どもの学習意欲

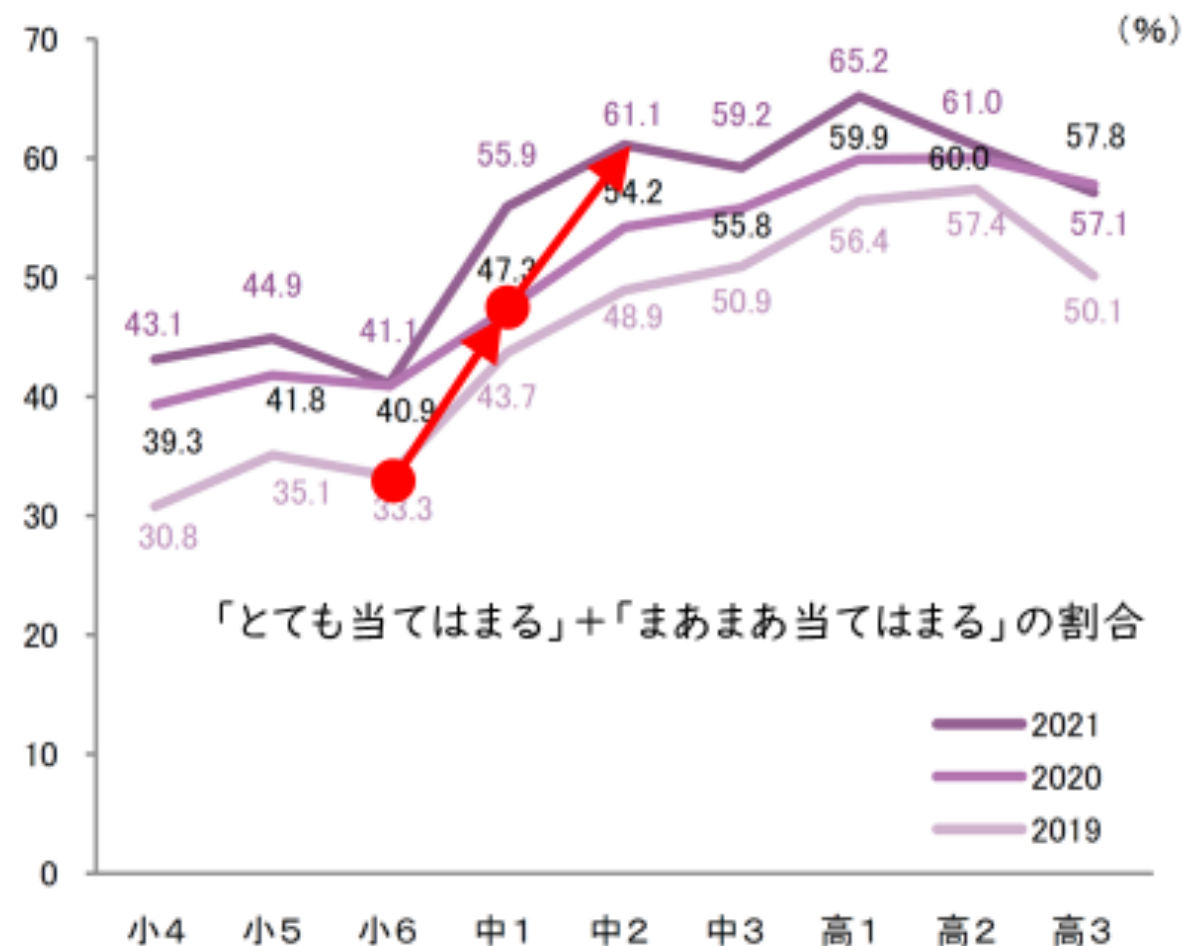
2019→2020→2021

小・中学生において
「勉強しようという気持ちがわ
かない」児童生の割合が増加

2019年度の小学校6年生

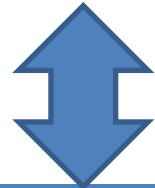
33.3%→47.3%→61.1%

勉強しようという気持ちがわからない(学年別)



重新審視公共教育的存在 從1872年歷經150年

令和的日本型學校教育
實現能夠引發所有學生的可能性的學習
個別最適化學習與協同學習的整體開展
(教育課程部會)



關於擔當『令和的日本型學校教育』的教師培育・採用・研習的方法～實現「教室學習的新姿態」、形成擁有高品質的專業度的教職集團～(教員養成成會)

少子化

多樣的孩子
貧困
差異擴大

日本型
WELLBEING

學制
150年
現在的
我們

令和的日本型学校教育（2021年1月25日）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

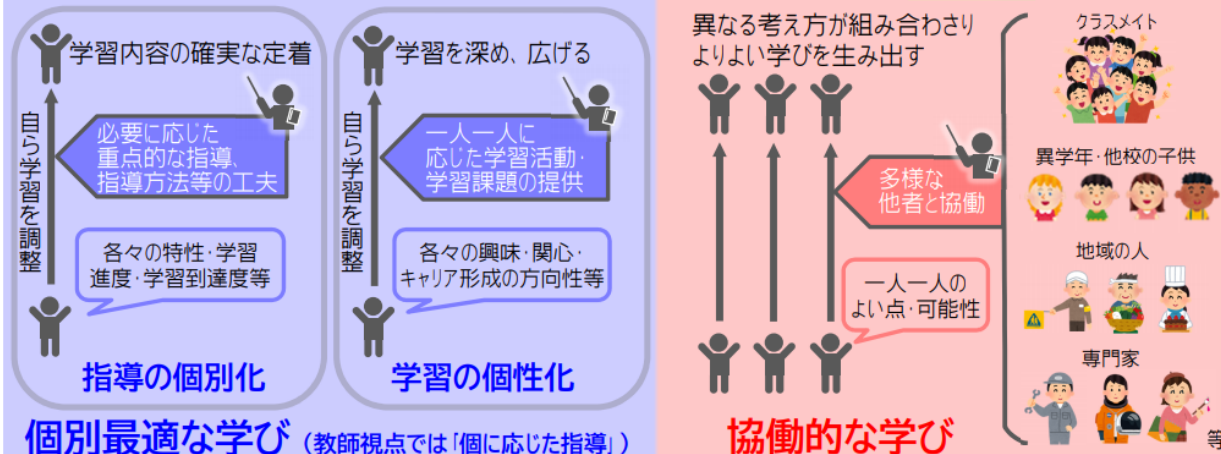
主体的・対話的で深い学び

授業改善

資質・能力の育成

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援



個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）

習得主義 個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視
の考え方を生かす

履修主義 集団に対して共通に教育を行う 一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含
の考え方を生かす

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変革を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創生者となることができるようすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

を略号化した図等として整理したものである。

明年度國家的教育振興基本計畫

【基本的方針】

- ①日本型ウェルビーイングの向上・共生社会の実現に向けた教育の推進
- ②グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

2 開啟學習之門：

構築連結與網絡

追求學習的品質：學習觀

深度學習的過程

主體的

對話的

深度學習

會做

理解

探究 提問

安心感·歸屬感

關照是學習的根基

探究的學習

教育有兩種流派

為了培育民主的市民、教育「探究的技巧」

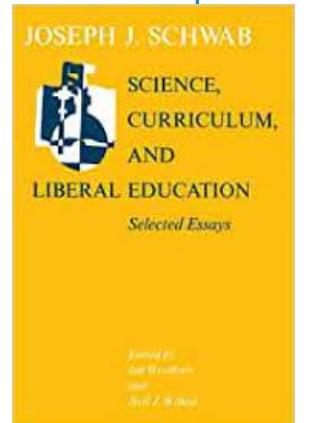
為了培育奴隸、教育「順從的技巧」

Joseph Schwab, (1969)

“Inquiry learning”



Science, Curriculum, and Liberal Education: Selected Essays. Univ of Chicago Pr.



孩子的主體性因教師而產生

活用緣分 關照將會支持學習

每一位孩子與教師的成長物語

如何看待（述說）這個孩子 相遇 跳出框架

常識的框架



看得見的部分

時間的框架

從身體的疲勞
出現的狀況

孩子的相互支援

相互搭鷹架的孩子們



從影片中有什麼感覺呢？

班級內

小學1年級

國語 「動物的小孩」說明文

請觀察兩人小組的男孩跟女孩
課堂持續在進行，這兩人努力的
在寫學習單

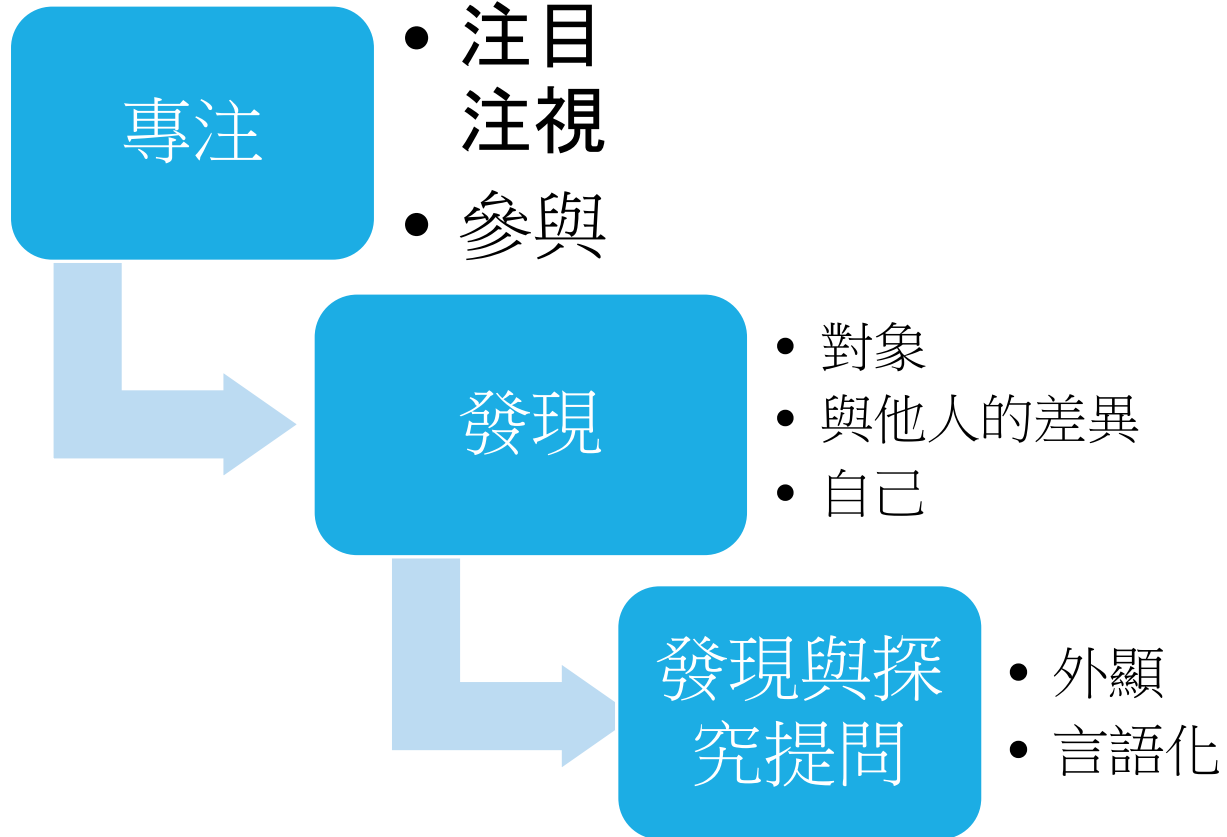
從模仿開始的學習

一起互相學習

在相互學習中發揮主體性

Co Agency

轉換學習過程的品質 進位的詢問 與時間相關



國中的教室 4人小組中

老師何時援助？如何援助？

鷹架

關於鷹架(Scaffolding)的思維 (Wood, Bruner, & Ross, 1976、北田訊、2020)

- ① Recruitment 集中學生針對課題的興趣與意識
- ② Reduction in degrees of freedom 設定課題的程度在學生努力能夠解決 (manageable limits) 的範圍內。
- ③ Direction maintenance 為了不脫離課題的目的、使學生互相時常懷抱熱情與同感，以持續學習慾望。
- ④ Marking critical features 「學生現在做得到的」與「最終希望學生做到的」有何不同、用許多方法指出兩者重要的不同、讓學生有所發現。

⑤ **Frustration control** 希望學生能感受「(與指導者)一起做的話、會減輕對於課題的恐懼與壓力」。(例如、針對做錯的學生不要改變表情、活用孩子希望討指導者開心的心等等、許多不同方法。)只是、要小心不能讓學生過度依賴指導者。

⑥ **Demonstration** 指導者向學生示範解決課題的方法。只是、這樣的示範並非只是告訴學生如何解決問題，如此單純、需要許多纖細的工夫。(例如、指導者重現某位學生解到一半的想法、學生以此類推、繼續思考解法等。)

跨越學年相互連結

以內容的系統性串連課堂

保障能夠刻劃Character的深度學習

「教育的目的應該是首先讓學生自己吸收知識，給自己留下深刻的印象，發表自己的見解，並學習精神上的享受……忘記了一切之後所留下的，才是真正學到的東西。」

「培育孩子意味著培養他們心中對於活著的快樂和希望。我希望他們學習作為人，在生活中的「快樂」和「希望」」

エレン・ケイ 『兒童の世紀』 1900

深度學習：題目、參與、情動

校內－校外
生活空間、開放於地區
與社會

與多樣的人相遇

深度問題

(挑戰·真正性
成為與我有關的
問題)

深度參與
(對話、探索
探究、表現
做到最後)

深刻理解
(價值、意義、自我
形成、情動)

不只是 1 堂課，用中長期的視角思考
單元、計畫等的時間軸

Curriculum management

Slow food 跟 fast food



Slow Pedagogy 是什麼 (Clark, 2021)

不只是放慢速度、也包含在專注時快速且強力的時刻

專注學生、大人、素材的節奏

不僅止於個人、也在團體中進行

對於遊戲或現下在進行的事賦予價值

花時間、走長遠的道路

注重數字所測不出的學習

注重過程甚於結果

追求使深度學習成為可能

Project learning 就是
SLOW
PEDAGOGY 的教育

Fast Knowledge and Slow knowledge 的 世界觀完全不同

FAST KNOWLEEGE

能夠測定的知識才是真正的知識。

資訊與知識是一樣的東西。

所有知識本來都是普遍的一般的事物、並非限制於特定的場所、時間、或環境。

Fast knowledge產出權力結構。

Slow Knowledge

學習的真正目的、並非在於這個人的聰明、而是其人生的智慧。

獲得知識的速度、與學習到智慧的時間成反比。

需要注重的關於學習經驗的關鍵詞

符合個性的興趣、想法和願望

從錯誤中學習

協同探究 仔細觀察 認真思考

新的關係和深化 (行為)製造和表達

符合孩子個性的、感性的·情動的參與(內在震動)

來來回回 具創造性的失敗

符合本質的疑問 Big Idea

媒介·道具 先人的智慧

共同體·與地區社會的新連結

發現全新的自己 同伴的優點與可能性

大人 真正性、實物的脈絡 生態學的脈絡、生活

重新提問 (重新提案) 設計環境



If we teach today's
students
as we taught
yesterday's,
we rob them of
tomorrow.
- John Dewey

如果我們用昨天一
樣的方法教育今天
的學生，我們即將
剝奪他們的未來
(約翰·杜威)

教師の挑戦、探究